

シリーズ 今、気づき、じんけん

共に生きる ③

単身高齢者の「孤立」を防ぐ

日本の人口の約28%が高齢者の時代。一人暮らしの高齢者も増加しています。単身高齢者が直面する問題について、久留米中央地域包括支援センターの井鍋侑佳さんに聞きました。

周りに迷惑を掛けたくない

担当する日吉、篠山、南薫、荘島、長門石校区は、市内でも単身高齢者が多い地域です。配偶者と死別した、家族が遠方にいる、結婚していないなど単身の理由はさまざまです。物忘れが進行したり、体調が悪くなったりしているのに「今まで一人で生活してきたから、他人の支援は必要ない」、「子どもや親族に迷惑を掛けたくないから、そっとしておいてほしい」と、支援を拒否するケースも増えています。近所の人が高齢者が住んでいることを知らないケースも多いですね。

急増する「セルフネグレクト」

生活環境や栄養状態が悪化しているのに、改善しようとする気力を失い、周囲に助けを求めない状態を「セルフネグレクト＝自己放任」といいます。自分自身で人権や人としての尊厳を侵害して



井鍋侑佳さん

高齢者が「住み慣れた地域で暮らし続けることができるまちづくり」を目指し、相談や支援を行う。社会福祉士・精神保健福祉士。昭和59(1984)年生まれ

いる状態です。単身高齢者が陥りやすく、ごみ捨て、入浴や着替え、部屋の片付け、食器洗いや調理、通院などが面倒になります。自らの心や体のケアができなくなり、最悪の場合「孤立死」を引き起こすことも。この状態が長く続けば続くほど「もうこのままでいい、放っておいて」という気持ちになって、人との交流を絶ってしまいます。周りの人も「地域のイベントに誘っても、本人が断ってしまう」や「どう声をかけていいのかわからない」など、次第に交流が減ってしまいます。社会参画への機会が少なくなることで、「生きがい」だけでなく「社会性」を失い、「孤立」を生み出してしまうのです。人として健やかに生きる権利を守るためにも、周りの気付きや支援は欠かせません。

高齢者の衰えを正しく理解して

仕事や子育てを退いた高齢者は、人とつながりを持ち、地域の中で必要とされることで「生きがい」や「社会性」を持つことができます。知らず知らずに陥るセルフネグレクトを防ぎ、早期支援につながることも。そのためにも「地域の一員」、「地域に必要な人」と思う周りの姿勢こそが大事です。健康管理をはじめ、介護保険や成年後見制度などの支援を受けることで、これまでの生活を継続することができます。支援を受けることは、迷惑を掛けることではありません。周りの人が高齢者の身体・認知機能などの低下を正しく理解し、認識することで、誰もが生きがいを持ちながら、健康で穏やかな高齢期を送ることができると思います。

☎長寿支援課 (0942・30・9038、FAX 0942・36・6845)



一人一人に合った支援を、保健師や主任介護支援専門員と考えます



ドローンは縦・横約1.5mの大きなもので、4本のノズルから噴霧します

ドローンで市野球場を除菌
コロナ対策のため企業が協力

9月1日、新型コロナウイルス感染防止のため、久留米市野球場の観客席などにドローンを使って除菌薬を散布しました。来春の甲子園出場を懸けた第147回九州地区高等学校野球福岡県大会が今月5日から始まるため、農業機械を取り扱う平城商事が無償で実施。農薬散布用のドローンを転用し、全体で約1500ℓの除菌薬をまきました。

企画した平城商事三社長は「自社が持つドローンのノウハウを生かした。高校球児の力になれば」と話しました。



ケツメリクガメはな(左)、りくと餌やりを行う「な」の親の4人

「りくと」は「な」に決定
りくガメの命名に26点応募

鳥類センターのケツメリクガメ2匹の名前が「りくと」「はな」に決まり、9月5日に園内で命名式がありました。名前は7月から8月にかけて募集。126点の応募の中から選考委員会が決定しました。式には、「りくと」の名付け親として伊藤龍生君(東合川町)と山田紅愛さん(筑紫野市)、「はな」の名付け親として高山英ちゃん(御井旗崎)と橋原湊航君(筑後市)の4人が出席。鳥類センターの年間パスポートやグッズなどの記念品が贈られました。

市政の動き

統合に向け第一歩

来年4月に予定される下田小、浮島小、城島小の統合に向け、8月25日に第1回城島小学校統合準備協議会が開催されました。協議会は保護者、地域住民や学校、市や教育委員会で構成され3校に設置。通学などについて協議します。この日は会長、副会長の選出と「協議会ニュース」を月1回発行し協議結果などを保護者や地域に知らせることを確認しました。

☎学校教育課 (0942・30・9217、FAX 0942・30・9719)



協議会の委員に説明する市職員

市ホームページ「くまの支援合うプラン」へは、詳しくはQRコード

「伝わる」を工夫

市と市社会福祉協議会は、地域共生社会の実現に向けた「くまの支援合うプラン」わかりやすい版」を作成しました。障害のある人や外国人、子どもなどあらゆる人にプランの内容が伝わるように、イラストや易しい文章を使っています。伝える内容も絞り込み、必要な情報が必要な人に届くように工夫を凝らしました。

☎地域福祉課 (0942・30・9175、FAX 0942・30・9752)

市ホームページ「くまの支援合うプラン」へは、詳しくはQRコード



市ホームページで公開。読み上げなどにも対応しています